

その働き方改革、うまく進んでいますか？

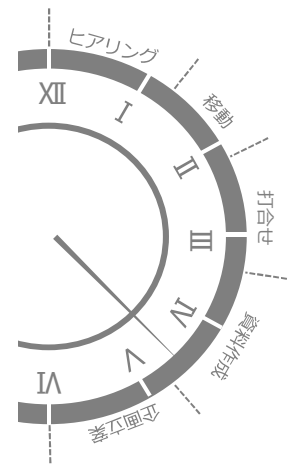
昨今、生産性の向上、ワークライフバランスへの取り組み、多様な勤務形態の実現など、「働き方」を取り巻く環境は大きく変化しています。また、そのような社会の変化に合わせ「働き方改革」に取り組む企業が増えています。

その一方で、施策を開始したものの以下のような課題を抱え、効果が上がらずにいる企業も多いのが現状です。

- 残業対策を実施しているが、社員の忙しさが一向に変化しない。
- 生産性が上がっている人といない人がいるようだが、根拠がなく確認できない。
- 業務改善活動をしているが、効果が出ているか分からない。

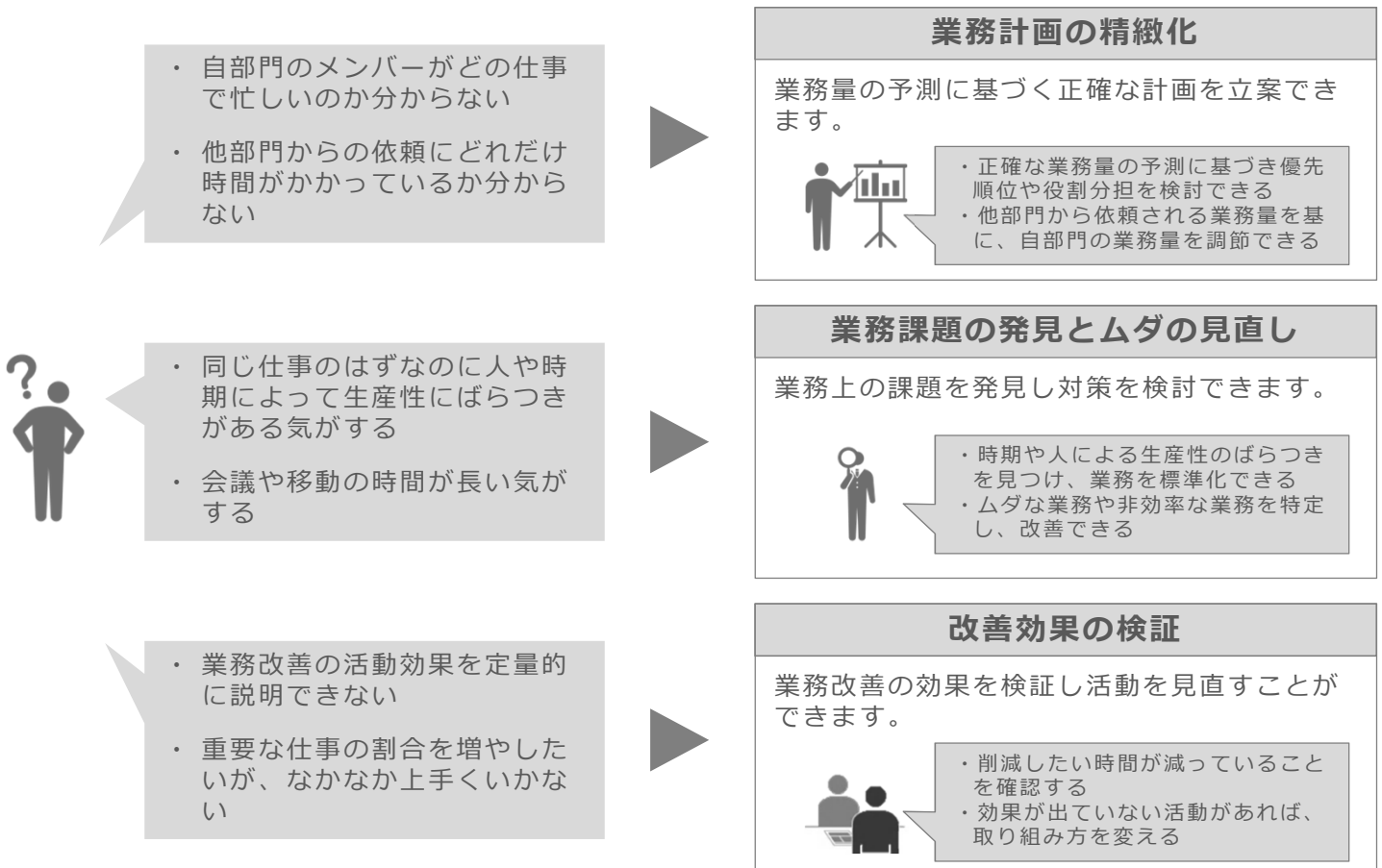
私たちは「時間」という貴重な資源を「働く」という行為に投入することで、成果を創出しています。働き方を見直す、ということは、時間の使い方を見直す、と言い換えることができるのです。

業務時間を計測して、効果の高い働き方改革を実現しましょう。



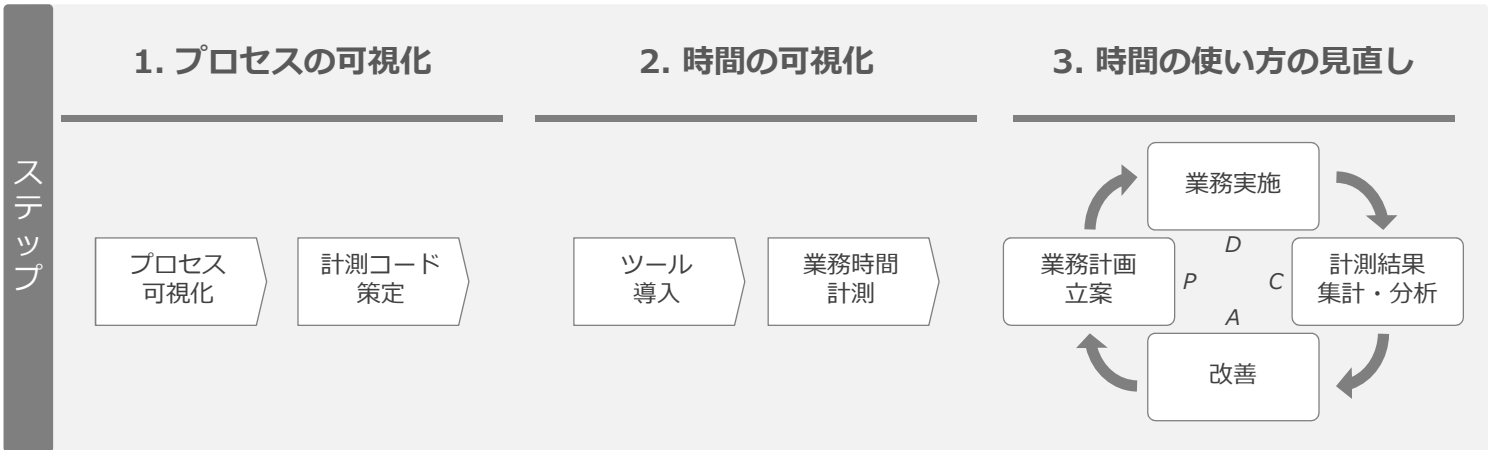
時間を測ることで、できるようになること

どの仕事にどれだけ時間を使っているのかを知ることによって、以下のような課題を解決できます。



業務時間計測の3つのステップ

具体的な改善につなげるために、まずはプロセスとプロセス毎の業務時間を可視化し現状を把握します。可視化した時間を基に、時間の使い方を継続的に見直していくことで、効果の高い働き方改革を実現できます。



概要

全社のプロセスを可視化した上で、計測対象範囲を検討します。また、分析粒度と入力負荷を鑑みて計測単位を決定します。

計測コード一覧

L1	L2	L3	L4	L5	L6
経営支援	経理	決算処理	月次決算	原価計算	工数データ取込
					給与データ取込
					配賦処理
					契約別原価算出

計測ツールを導入し、業務時間を計測します。入力者は日次で業務時間を記録することで、企業、もしくは個人単位で時間の使い方を可視化することができます。

業務時間の内訳が可視化される

現場・管理職・事務局で計測結果について議論します。共通認識を醸成することで無理のない改善活動が継続できます。

1か月でこんなに移動に時間を使ってたのか…！

過去2か月と比べて、生産性が上がっているね！

なぜ同じ仕事なのに人によってばらつきがあるんだろう？

エル・ティー・エスでは、ビジネスプロセスマネジメント（BPM）を軸にしたコンサルティングサービスを提供しています。BPMを用いた働き方改革にご興味・ご質問をお持ちの方は以下までご連絡ください。